

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 社会に貢献できる研究者・技術者を育成するため、学生が学会や論文などで研究発表できるよう指導を行う。	→就職状況、研究成果の公表・特許の出願状況、日本学術振興会の特別研究員採用人数。	B	B	/	/	/
2. キャリアパスを学生に周知させる。	→キャリアセミナーの開催状況。	B	B	/	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 2010年度は174件の学術論文発表があり、221件の海外での学会発表がなされた。特許について10件の出願が行われた。日本学術振興会の特別研究員にも6名が新規採用になっている。HPを公開している研究室は全研究室の82%である。就職支援活動として9回のキャリアガイダンスを実施した。就職率は93.8%であり、前年度(96.3%)より若干低下したが、就職者の86.3%が研究開発・技術系、6.9%が理数系教員で占められており、両方で93.2%になる。この数値は大学院で学んだことがキャリア形成に活かされていることを示す。
☆ 小項目6.4.2	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。 (説明) 学位取得の適切性を保つため、最終成果を公開で発表し、主査副査が審査を行う体制を整えている。また、学位取得プロセスについては学生に明示している。また学生のキャリアパス形成を周知させるために年間9回の理系向けキャリア形成プログラムに加え、6回の文系就職をサポートするキャリア形成プログラムも実施した。大学院の講義科目として2011年度から経営戦略研究科と共同で「研究開発型ベンチャー創成」を開講した。
その他	

《評価指標データ》

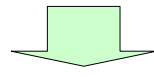
各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

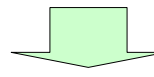
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	生命科学専攻、情報科学専攻以外の専攻で、中間発表会等リサーチワークの進行状況を把握できる機会を設けたい。
----------------	--

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 「自由記述」の記載事項は、なにか改善すべき状況を認識してのことでしょうか。この内容ですと、中項目としては6.3「教育方法」のほうが適切かもしれません。
- 研究科としての教育成果は着実に上がっているようです。中項目6.1のディプロマ・ポリシーに沿った人材養成ができてきているかどうか、今後も検証が望まれます。

【学内委員】

- 多数の学術論文数、海外での学会発表数、特許出願件数があり、具体的な教育成果が上がっているものと思われます。また、キャリア形成のためのガイダンスも多数実施され、この点も大いに評価できます。学位授与に関してもそのプロセスや審査体制がしっかり整備されており、評価できます。
- 現状の説明に掲げている論文数、学会発表数は院生が関わったものの数値でしょうか。それならば教育成果の指標として評価できます。さらに就職率も優れていると判断します。
- 学位審査における主査は、本人以外の研究指導教員でしょうか。
- 小項目6.4.2については、大学基準協会の留意すべき事項の観点からの説明が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目6.4.1
基盤評価：なし
達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」
- 小項目6.4.2
基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」
達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

6.4.1(現状説明)

現状の説明に掲げている論文数、学会発表数はすべて大学院生の関わったものが示されている。

★ 6.4.2(現状説明)

また、学位取得プロセスについては学生に明示しているを削除。

学位授与方針については各専攻でまだまとまっていない。